

～これからを笑顔で楽しく生きるために～

1 1期 アクティブシニアをめざす

日 時：2024年1月25日（木）

場 所：豊中市地域共生センター

午前の学習テーマ：多文化交流を聞く

講師：箕面市国際交流協会 河合様

午後の学習テーマ：ひとりぼっちをつくらない

講師：豊中市社会福祉行議会 勝部様

河合さんは、授業の冒頭に、受講生を4人の小グループに分けて、各自の今日の元気度を紙に書いて、4人で話し合ってくださいと言われました。

次に、異文化を感じた体験をそれぞれが披露して、各グループで出した内容をクラスで発表しました。自然な流れで授業内容に導かれました。

箕面市の外国籍住民は、2%くらい。

箕面市は、大阪大学の留学生が多いから。

家族の留学に伴って日本に来て、言葉の壁・制度の壁・この壁（3つの壁）により自分の居場所を見つけられない方の話を聞きました。

本来、本国では自分を生かす仕事があったにも関わらず、3つの壁で自分を見失う人。

日本語がはなせなくて、活躍の場がなくなっている人が、食事作りならできると立ち上げたのが、箕面市国際交流協会にある「comm café」とか。

[comm cafe \(コムカフェ\) - mafga](#)

まずは、お茶を飲んで、食事をして、会話をして、お互いを知ることから始まる国際交流ですね。

午後からは、待望の授業でした。

豊中市社会福祉協議会 勝部麗子さん

ひとりぼっちをつくらない

～すべての人に居場所と役割を～

阪神・淡路大震災を期に、豊中市では、小地域福祉ネットワーク活動開始。
その後、小学校区ごとに福祉委員会を設置。見守り・声掛け・サロン活動が始まる。
ことわらない福祉をめざして、縦割り行政のはざままで、取り残される人たちにかかわってこられて
そうです。

活動の一部です。

定年退職後などの男性を中心とした社会参加の場(空き地を使った畑)を使って、地域と
野菜の担い手づくりを行ってきました。「豊中めぐり」岡町菜園近くの篤志家の方から空き
家を無償で提供いただいたことから「豊中めぐり」の活動にプラスしてさらに地域共生連携
拠点として運営する場所「和居輪居」ができました。

広くて心地よい部屋で、人が集まり・集うことができます。

わいわい食堂・オレンジカフェ・洋裁教室等いろいろなイベントの拠点になっているそうです。

最後に、勝部さんが、「皆さん、お鍋を焦がしたことがありますか？」と問いかけ。

手を挙げる人、多数。

「安心して、ボケてください。何とかします。」と授業を締めくくりました。